

会員の声



「傘寿」を祝って

同期会！

山形県在住

大場 三郎

(昭和32年農学科卒)

歳の過ぎるのは早いものです。昭和32年春に学窓を終え半世紀、それぞれの天職と社会貢献や人生を送って来たことを今改めて語り明かしました。

6月27日。ここ天童温泉パラシオもがみに集結した13名(農4・林9)。遠くは北海道や三重の津市からと参集してくれました。

私たち五期会は、これまで五農会・五林会として別々に開催して来ました。最近になつて、五農会と五林会が合同で開催する機会が来ました。最初は、平成15年6月9日田麦荘に15名(農5・林10)が参加し、翌日大学の演習林に記念植樹をしました。

次は、平成17年8月21日秋田県の小安温泉に五農会から4名、五林会から10名が参

加しました。当夜の酒宴の盛りあがりはもとより、自然豊かな温泉に接する溪谷美が今でも忘れられない思い出になつています。

お互い歳を重ねた今、人生の思い出は「農」も「林」もないだろうとの思いで、今回の統一開催の運びとなりました。さらに、今回の開催を機に次回からは五期会として一緒に開催することにし、開催時期・案内については五林会の事務局に託すことを申し合わせたところです。

今回も五林会の事務局が準備した「傘寿」・「左馬」入りループタイの記念品を胸に掛け、更なる活躍と健康を祈念したところでした。久しぶりに会えば、互いの壮健を喜び合いながら語り明かすのも、たちまちに時の過ぎるのと酒の空瓶を増やし。あの時代へタイムスリップ。一般教養を山形で過ごした鶴岡で過ごした時の話。啓明寮での思い出。正に青春の思い出は歳を重ねるだけ深くなりません。しかし、振り向けば参加できなかった仲間も年々増え、それぞれの事情で今回の参加を断念した方もいました。一方、すでに冥福を祈られ



吾が心の投稿歌

水戸市在住

齋藤 諦三（号諦観）

（昭和32年林学科卒）

る仲間が数多いのも仕方のないことだ。それにもまして、千葉や秋田から車で参ずる元氣者もいて、現在数え歳八十とはいえ酒量も話題も元氣そのものでした。二年後に再会することを誓って、翌日はゆつくりする暇もなく、それぞれに目的にむかつて帰って行きました。まだまだ忙しい人生が続いているようです。



上段右端が筆者

入学前の特殊体験
海軍対潜学校
水側普通科第16期生
海軍志願兵（兵籍番号）
舞志水31500

任務は敵潜水艦の音源（エンジン音）を聴取する水測兵（聴音員）終戦時の階級は「ポツダム水兵長」

号諦観は我が国を代表する日本画の大御所水戸市出身の横山大観の観をチョイト拝借！

○内川の擬宝珠ならびて美雪の義民が駆けし三日町の橋

○なかながる美雪の橋のたもとにて川藻と遊びし童のころ

○野末にてつんべの葉つみて占いつ囉したてたる思春期のころ………註①

○鶴岡のさかなやならぶ三日町のあるじかはりし今の町なみ

○ふるさとのおほ川を渡りつ見渡せば大曲りの瀬むかしと変わらぬ………註②

○広き野を北にそびえて裾海に尊くおわす出羽の大富士



○鶴岡を子守し給ひて金峰母狩雨ふる日をも雪ふる日をも

○若葉萌ゆ鶴翔ぶ園にたちよれば床板の音むかしを伝へる………註③

○鶴岡の磯釣のやまひとときくたびに友ありて加茂に行かぬを悔いぬ

○おごそかに権現おはす唐様に東照宮の輪輿の美よ

○ともどもに面輪語りつ歩を運べば借楽園に萩の花散る

○ふるさとの茄子漬けうまし愚かしくほぞかへたかと思ひあぐねつ

○那珂川の巡るを見つ友と語る借楽園に秋は早や来ぬ

○感無量面輪もとめつ久里ヶ濱つわものども（少年兵）の夢跡に立つ………註④

○我が歌に茂吉の血をも流れりと微笑み給ふ同期の君は

○草も木もうち倒されし夢の跡たぎる油のかなしかりけり………註⑤

の香は汗と油の中つ世と変わらぬ

○波立たぬ深き入江の夢の跡人の油は外海に出ず

○さがみ野の三浦に仕へしものふはいかにありしか我等も兵士（少年兵）

○飢えに泣く幼き兵（少年兵）をいつくしむ慈母観音のまなぶたのかげり………註⑥

○波立たぬ深き入江の夢の跡たぎる油のかなしかりけり………註⑦

○華麗なり東照宮の庄内の酒井寄進の五重塔かな………註⑧

○庄内に悪人はいぬと心きめつ水戸黄門の（他に）チャンネル廻はず

○友の年賀、故郷の山月山の高さは一九八〇メートルとだけありて啄木を想ふ

○文は人も畢竟人生也、橋牛、姉崎嘲風之記の碑は鶴岡公園地大宝館

○月山を望む東側に在り是非ご覽を乞ふ

○たゞ見れば何の苦もなき水鳥の足にひまなきわが思ひかな 徳川光圀之詠

○この平凡な事象によくも考えついたものと感心し歌も俳句も考え付かない事をさがし出す事が大切でこの思ひ付きがさすが並でない名君であると思う

○水戸市在住と書いたのは

各位の地方の様子や、例えば所在が解り、投稿者種苗業の会社にならぬのです。各位の庭に咲く花々等の模様分かり助かります。投稿募集には氏名の脇に是非記すことにしたらと思います。

（註①）おおばこの葉を両手でちぎり両方に「三本筋が出る」「ワのカモコの毛三本だ」と相手の発毛を占った野趣に満ちた遊び方で（男の子だけの遊びで男の子の発毛は十四、五才）決してケンカにはならなかった。

（註②）赤川の大曲りの瀬は一ヶ所鶴岡の学童達の夏休みの水泳場でした。
（註③）鶴翔ぶ園、私の母校山形県立鶴岡南高等学校（60期生）
（註④）横須賀海軍対潜学校跡で
（註⑤）近世の入口の世に隣国大名北條早雲と戦になり三浦導寸公は敗者に海軍対潜学校初声分校兵舎（現三浦市）の脇に池の様な油壺湾が有り、戦死者が重なり浮かんだという。

（註⑥）私達は日曜外出に下宿の叔母さんから腹一杯になるまでご馳走をつくってもらった。
（註⑦）三浦軍の戦死者の人の油

(註⑧)之は誤りで五重塔の表札に酒井忠勝寄進とあり若狭藩十萬三千石酒井内膳守酒井忠勝公であり出羽庄内十四万石後に十七萬石庄内藩の寄進は酒井左衛門尉酒井忠勝公寄進で大谷川(だいやがわ)に架かる神橋で私が鶴岡でご当主の忠明様から直接教えを乞うたものです。

50年ぶりに 同期会開く

寒河江市在住

大沼 幸男

(昭和38年農学科卒)

月日の経つのは早いもので、私達昭和38年卒業生は、今年で卒業して半世紀の50年を迎えました。この記念すべき50年を迎えるに当たり、かねてから有志の間で、鶴岡で同期会を開こうと計画していました。私達は卒業してから全国の各分野で働き蜂となつて働き、気が付いたら古希も過ぎて70歳を超え、シルバの仲間に入っていました。私達38年卒業生は、農学科39名、林学科23名、農業工学科22名の計84名で、この50年の間に残念ながら亡くなった

仲間が10名、住所が判らず連絡の取れない人が7名いましたが、他の方には案内することが出来ました。体調が優れず残念ながら出席できないと連絡してくれた仲間が約1割強の9人いましたが、28人も集まってくれ、その中に卒業後鶴岡に来るのが初めての人も数人いました。

第一日目の羽黒山の宿坊は、他のお客が来ていなかったため貸しきり状態で、ゆつくりと会合が出来、殆どの人が50年ぶりに会う人達ばかりで、酒を飲まずに1時間以上にも及ぶ自己紹介に熱心に耳を傾けて、昔の思い出に耽つたのには、本当に印象的で感動的でした。宴会は亡くなった同期や先生方に黙祷を捧げてから始めましたが、山菜を主とした精進料理はととても美味しく、殆どの仲間が全て食べていたのにはびっくりもしました。宴会も最終高潮に達し、部屋に戻つての二次会には半分以上の仲間が集まつて、夜遅くまで懐かしい昔の学生時代の話に花が咲いたのも、忘れることのない思い出になりました。

次の日は皆さん歳を取ったせいから早起きで、7時から出羽三山の御神徳である護摩祈禱とお払いを神主によって受けることが出来、更に、参

加した同期の一人一人の名前を読み上げて、所願成就をして頂きそのお札を頂くことが出来ました。最高の記念になりました。加茂水族館に行く前に昔飲み歩いた川端通りを散策したのですが、卒業後鶴岡に始めて来た仲間もいて、全く変わり果てていて飲み屋どころか散歩道になつていたのには啞然として眺めておりました。続く加茂水族館の見学は、今や世界の顔となつた同期の村上龍男君が苦勞してここまで観客数を延ばした水族館で、クラゲの展示数ではギネスブックに登録されるなど、村上館長に直接案内して頂きながら見学し、昼食にクラゲ定食を食べたことも忘れられない思い出になりました。

母校の大学訪問前に、昨年未オープンした新啓明寮を訪れて、ここには自転車置き場より広い駐車場が設けられていたのには驚きました。新啓明寮は男女共用の寮になつていましたが、女子棟に入るには、手のひらを認識するシステムが採用されているので男性は入って行けないとのことでした。すべて個室はマンションの1DKを思わせる部屋で、食事はありませんが台所もあり、1カ月18,000円とか、今の学生は恵まれて

いるのにこれまたびっくりしました。私達の学生時代は殆ど女性はいなかったのですが、今は半分以上女性だとかこれにも驚きました。

大学訪問は、建物は新しくなり昔の面影は全く見当たりませんでしたが、ホームカミングデーと称して暖かく迎えて下さり、現在の改変された講座や、意見交換の場を設けて頂き、出席した同期の中から貴重な意見も出て、意見の交換を持てたのも良い思い出になりました。この同期会が皆様に喜んでいただけるなら、もう少し早くからこのような会を開いておけば良かったのですが、それもまた卒業50周年を記念して開けたのが逆に印象に残つたのかもしれない。出席した仲間からは最後の同期会では寂しいと云うことになり、2年後に山形で開こうと云つて母校を後にした次第です。体調を大事にして、今からまたお会い出来る日を楽しみにしましょう。先輩、後輩の皆様も、是非鶴岡で同期会を開いた時は大学訪問をして下さい。今回の同期会を開くに当たって、世話役を務め

てくれた人や、鶴窓会本部の村上さんにお世話になったことに謝意を表します。



前列左から2人目が筆者



ブラジルでの思い出

旧勤務先ミドリホクヨー株
山形市在住

浅野 謙一
(昭和41年農学科卒)

小生は、佐藤会長と同級生で年に二度は有志が温泉に集まり酒を酌み交わし旧交を温めております。

小生が中間管理職の頃はブラジル、中国、メキシコ、アメリカなどに進出したので大卒もかなり増えてました、そのうち山大の農工理の後輩だけで三、四十人ほど入社していたと思います。

主力のカーシートの生産は順調で、生産量が世界第二位になったのは驚愕でした。

三十代でブラジル工場に三年程出向しました、ある程度の困難は覚悟していましたが、当時のブラジルは、インフレの激しい時代で、物の値段が毎日変わるほどでした。外貨枠も少なく、新規の設備投資をするには、ドルを稼がね

ば設備の輸入は制限されました。それで国内営業から、輸出に重点を移してドルを稼ごうとしました。今まで輸出奨励金の商品が、反対に輸出に関税を掛けられる等、朝令暮改の政策で混乱の日々でした。

従業員は八百人ほどの三交代制の工場でしたが、生産性は最悪でした。ラテン民族は、本来働かないという先入観念があり、生産量を確保するためにあらゆる手段を講じました。

ノルマを決め、『目標達成したらその時点で帰宅してもかまわない』事にしたなら、定時間より三時間も短縮し終了してしまいました。

余った時間を買取り出来高払いにしたら作業の速いこと。ラテン民族も本来は出来るんだと認識を新たにした次第です。

それからノルマの数字を徐々に増やしていったのは言うまでもありません。

次に考えたのは、ブラジル人は三度の飯よりサッカーが好きなのに目をつけました。幸い社内には芝生のサッカー場があり、普段は裸、素足でボールを蹴って遊んでいたので。そこに職場毎のチームを作り、対抗試合をさせることにしました。憧れの

ユニホームとサッカーシューズを、八チームに揃えてあげたら、それだけで興奮し感謝しておりました。でもそう簡単にサッカーをさせるはずもありません。

条件を付けました。

一、作業終了後二日二試合だけ。

二、職場長は総監督で、仕事に非協力的な部下の出場

と奪権がある。

三、時間内にノルマを達しない

日は試合が出来ない。

四、喧嘩したらレッドカード

で即退場にする。

このルールを押し付けました

が、ノルマを達成して毎日試合が出来たことや、連帯感が生まれたことには驚きでした。

会社の出張や経産省の委託で、世界各国を調査させて

頂きました。国際基準や情勢を把握し戦略を練らないとガラパゴス化し、国際競争力に遅れをとると痛感しました。ど

この国に行っても文化は違

が、心を開いて接すると親切

で人間はみな同じだと悟り、

世界観が変わりました。

小生の記憶に残る業績は、

デユボン社に対抗するポリウ

レタンの発泡に関する特許

(後に日立化成にテストプラ

ントごと売却)。

加工貿易の免税措置に関

する暫定八条法案を議案書

や、膨大な資料と仮想質問のQ

&A等を草稿し、衆参両議院で可決成立されたことかな？
よく国会を通過したなど、今考えても驚いております。

この頃思うこと

農業
山形市在住

横川 庄栄
(昭和41年農学科卒)

わが農園の主作物「ダダチヤ豆」は、この3年スポンジ莢の発生に悩まされている。原因は6、7月の高温早魃で、梅雨に入っても雨がなく、むしろ乾季ともいいうべき様相の気象にある。

また、秋の主作物「マイタケ、ナメコ」は、年々発生時期が遅れ、昨年は10月と11月、例年より1ヶ月も遅くなつてしまった。そして晩限を狙う大根は9月14日に蒔いても、白菜は9月2日に蒔いても収穫できたのである。常識的には大根は9月5日、白菜は8月25日がは種晩限とされてきた。

昭和50年代、農作物の生産安定に関わっていたことから、気象の変動にはいささか敏感だったのだが、その頃よく「異常気象」の単語を耳にし、使いました。異常の内容について

は高温や早魃、暖冬や冷夏などであったが、現在のようない梅雨が乾季になるような異常さはなかった。当時、向小水河期説が支配し、地球温暖化の考えはなかったが、しかし、異常が恒常になる予感があった。

高校時代、石原裕次郎主演の映画に、「風速40メートル」と言うのがあったが、当時は気象が安定していた時代で、風速40メートルはまさに映画のタイトルになりえたのである。しかしいまや風速60メートル、気象庁の風力階級も見直す必要があるのかも。

1933年に記録した山形の40.8℃は6年前ついに破られ、さらに今年は、高知県で41℃を記録した。そして連日の猛暑、過去に経験したことのない大雨、頻繁に起きる竜巻、まさに異常気象のオンパレードである。

スルメイカの成長不良や、サンゴの白化、北海道東部海域でのマグロ漁、サンマの南下遅れ、鮭網にマンボウが掛かるなど海水温の上昇に起因する現象が次々と報道され、世界的には、砂漠の拡大、極域及び高山の水の融解、海面の上昇はますます進み、今年にはヨーロッパを始め世界各地で大雨の被害が発生し、時ならぬ降雪など、異常気象の